

中田かわら版 4月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい 〈69〉

地域奉仕は10年・・まだまだこれからも！！

あわの きよつぐ
栗野 清嗣さん (76) 戸塚苑



昨年のある日、泉区長の深川敦子さんが突然自宅に見えた。戸塚苑会長10年の表彰の為であり、コロナ禍における感染予防の理由で個別訪問を受けたのだ。記念の写真も撮った。

栗野さんは銀行マンだった。都民銀行（現きらぼし銀行）世田谷支店や横浜支店を経て本社システム部へ。65歳定年前、事務センター勤務の中にも拘わらず、戸塚苑自治会の会長に押し上げられてしまった。銀行マンとして培った対応の優しさ、確かさが期待されたのだろう。あっという間の10年が経ったという。

自治会長になって間もなく民生委員に推されてしまった。更に中田地区社会福祉協議会の副会長にも推薦されてしまった。昨年末亡くなられた前中田連合自治会会長の望月榮さんから強く推されての受諾であった。もはや2刀流を超えている。（決して大谷翔平さんと比べてはいません。）月々の定例会議のほか、各種イベント開催、付随する打ち合わせ。学童登下校時の見守り、数えたらきりが無い。しかしながらどれもこれも地域福祉活動に欠かせないものばかりだ。簡単に休めるものではない。暑い日寒い日、雨の夜、風の中。愛するバイクで駆け回っている。



栗野さん（右）と筆者
2022 1. 24（撮影 宮田）

そんな栗野さんを50年以上支え続けてきた善栄（ヨシエ）夫人は職場も一緒だった。入行の面接は頭取から直接、出身地徳島で受けたそうだ。結婚後に覚えたフラワーアレンジメントの才能が認められて、今でも注文が絶えないと聞く。色彩や造形、芸術的センスが必要とされている。常に時代の変化、新感覚もキャッチしながら。

昨年、戸塚苑自治会会長を降り、来る11月には民生委員も年齢の制限があって辞めることになっている。但し中田地区社協活動はまだまだこれからも続く。コロナ禍での活動自粛はそろそろ終わるだろうし、高齢者への支援や子育てサロン活動も忙しくなるだろう。公園遊びの活動はますます

拡大してきている。クリスマスのサンタクロース姿が一番似合っているので子供たちが大喜びだ。

地域住民の福祉と健康の為にまだまだこれからも期待され続けることだろう。地域の人から愛されるがゆえに放してくれないだろう。

栗野さんの熱意と誠意がここ中田の多くの人たちに拡散してゆくことを願う。

（松本 正）

～一人ひとりがCO2を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

中田町会館 築 25 年（1997年3月完成）

以前の中田町会館は中和田尋常高等小学校、東部分教場（昭和2年建築）＝写真下を地元住民が会館として利用していた。昭和28年に同分教場が払い下げられ利用されてきた。建物は木造建てで2教室を広げ学校机は当時のままで、椅子だけは4人掛けの長イスだった。その後、昭和42年、中和田から独立して中田連合自治会（39町内会、白百合を含む）が発足、約40年間お世話になった。

平成に入って横浜市当局から地下鉄工事と長後街道の拡幅工事のため平成5年11月までに中田町会館（文教場）を解体撤去の要請があった。連合自治会としては念願だった新館建設のきっかけにはなった。連合自治会は代替地と建設費用を要請。市からは会館跡地の一部と隣接の宅地貸与および、費用の一部助成の内示があったことを受け役員会、理事会とも了承、建物の解体を進め期日までに市に引き渡した。同時に会館建設委員会（小山栄次会長）を設置し、会館の具体的検討に入る（詳細略）。



平成8年（1996年）12月23日、上棟式。翌9年3月竣工。建設工事費6000万円。内訳、連合自治会4000万円、根下自治会2000万円。（内横浜市からの助成金各々1000万円。）

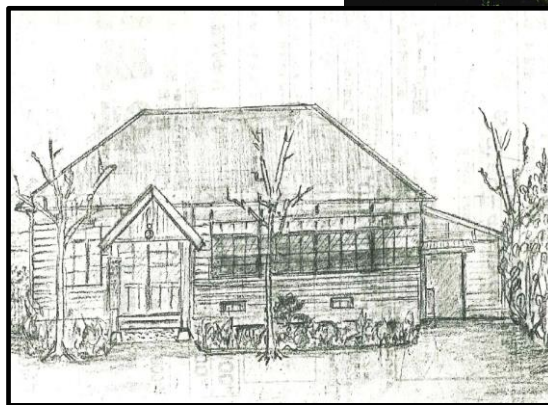
<会館建設委員会>（以下敬称略）会長・小山栄次、
建築検討委員委員長・小山定男、委員・鮫島次男、望月 榮、
田村恒雄、渡辺 武、小山幸一、
森 春義、桜井澄雄、金沢平八郎、
澤入政一

<資金調達委員>委員長・小糸義信、
委員・奥津桂次、長谷川昭男、羽生栄一、
鶴見忠雄、佐藤和衛、高橋文治郎

<工事施工業者>小山建設、鮫島工務店、望月工務店

<渉外委員>委員長・金子精一、
委員中島健五、森 幸夫

（写真も、宮田貞夫）



上、上棟式
平成8・12・23
中、組み立て
同9・1・27
下、落成式
同9・3・27
分教場のスケッチ・小島貞雄氏

編集後記

日本には二つの始まりがある。一つは新年元旦であり、もうひとつは新年度4月1日である。新年は年が改まって心新たに「一年の計は元旦にあり」でスタート。新年度は草木萌えて桜が咲き鶯声の中、入学、入社など希望に燃えた「新たな人生」の門出がある。今年も新型コロナの急増に遭って、一年の計も早々に挫折した方も、二つ目の始まりで再出発に臨んでほしい。

（田中 進）

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、木下良江、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、嶋 宏之